

平成25年度事業報告（各委員会）

【事業に関する事項】 …… 詳細は機関誌『連珠世界』参照

平成25年度は【公益社団法人移行認定】を目指し、日本連珠社の組織や規定など法体制の整備に加え、棋戦・連珠指導など、役員を中心に多くの会員が【公益事業展開】をより深く理解・認識し、労苦を惜しまず実行していただいた1年間でした。その結果、平成26年3月26日付で内閣総理大臣から「認定書」の発行を受け、平成26年4月1日付で《公益社団法人日本連珠社》の法人登記を完了したことを、事業報告を兼ねて報告させていただきます。公益社団法人移行認定に携われた役員諸氏と、公益目的事業展開に関わられた多くの役員・会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

日本連珠社の【公益事業目的】の一つに、「連珠の普及に沿った国際親善」があり、事業展開の範囲に「海外」も含まれていることは、『連珠世界』誌平成26年5月号と一緒にお届けしている新『定款』第3条事業目的で明記されているところです。平成25年8月、エストニア共和国タリン市で開催された「第13回連珠世界選手権戦」で、日本選手団（岡部 寛主将・八段、石谷信一九段、大角友希九段（前名人）、久富隆洋七段、卯坊六段）5名が参加し、AT戦で、大角九段が準優勝を果たし岡部八段が健闘し9位になったことを賞賛したいと思います。

第51期全日本連珠名人戦は、名人中村 茂九段が挑戦者大角友希九段を破って名人位を防衛しました。名人戦51期中、実に24期制覇という天才振りを披露してくれました。会員の多くが仕事・学業と連珠の両立に腐心する中で、中村名人や大角九段、A級に進出した各選手、またそれを支えた各支局長・支部長他、各地の連珠会関係者、珠友、選手にも称賛を贈りたいと思います。

全日本連珠名人戦に次ぐ大型全国棋戦「第9期全日本連珠選手権戦＝愛称：珠王戦」は岡部 寛八段が制覇しました。珠王戦は、平成26年4月27日～5月3日に台北市で行われる「第10回連珠チーム世界選手権戦」の国内代表選考会です。岡部八段は出場辞退したものの棋戦成績を基に代表選手が決まりました。各地域で公式戦が実施されていますが、参加者数で地域格差が広がっている傾向がさらに顕著になっており、今後の検討課題です。

インターネットは普及活動の施策上非常に有用であり、名人位挑戦手合いのライブ中継やA級リーグ戦局譜公開などで好評を博しています。各地の連珠会・公式戦にネット出身者が増加していますが、これらの珠友が会員になることは現時点では昨年度同様少ないのが実情です。メディアで継続して取り上げられることが連珠普及に最も効果的と考えられるので、プレスリリースの定期発信など、広報委員会のご活躍に期待します。

こうした状況下、各地域で連珠公認指導員を中心に、公民館や老人施設や児童館、小学校・中学校などで連珠の普及という公益目的の事業活動を積極的に継続されたことを率直に評価します。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されています。

【総会に関する事項】

（1）定時会員総会

- ・平成25年5月25日（土）13:35～15:30 於：江東区総合区民センター7階第3研修室
- ・出席会員数109名（うち委任状88名、会員総数126名、出席率87%）
- ・議長には三森政男氏が選ばれ、書記に岡部 寛氏と久保出美氏を指名後、議事録作成者に久保出美氏を指名した。旧定款第30条に従い議事録署名人には議長本人の他、岡部氏・久保氏の2名を推薦し、満場一致で承認された。
- ・議事録を全正会員（特別会員・家族正会員を含む、以下同じ）に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2013年8月号に掲載し、平成24年度事業報告・収支決算、平成25年度事業計画・収支予算案、役員の選任・報酬案、公益社団法人日本連珠社定款案、他、全議案が関係法令の賛成数に達していたので、議事詳報を割愛する。

[理事会に関する事項]

- (1) 第1回理事会 平成25年5月25日(土)10:10~12:30 於:江東区総合区民センター7階第3研修室
- ・出席役員 理事14名(うち委任状1名、理事総数14名)、監事1名(亀井)
 - ・議長:三森政男理事長、書記:岡部理事・久保理事、議事録作成者:久保理事
 - ・議事録署名人:議長三森政男、理事岡部 寛、理事久保出美(出席理事全員が了承)
 - ・議事録を全役員(理事14名・監事3名、以下同じ)に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2013年8月号に掲載しているため、議事詳報を割愛する。
- (2) 第2回理事会 平成25年5月25日(土)15:45~16:50 於:江東区総合区民センター7階第3研修室
- ・出席役員 理事14名(うち委任状2名、理事総数14名)、監事1名(亀井)
 - ・議長:三森政男理事長、書記:岡部理事・久保理事、議事録作成者:久保理事
 - ・議事録署名人:議長三森政男、理事岡部 寛、理事久保出美(出席理事全員が了承)
 - ・議事録を全役員に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2013年8月号に掲載しているため、議事詳報を割愛する。
- (3) 第3回理事会(書面理事会※) 平成25年8月22日(木)~同8月30日(金)
- ※メール・FAX・直接対話などによる意見交換と、【回答書】による議決表明、【回答書】締切8月30日
- ・出席理事 理事全員(理事総数14名)
 - ・議長:三森政男理事長、書記・議事録作成者:久保出美理事
 - ・議事録署名人:議長三森政男、副理事長飯尾義弘、理事久保出美(理事全員が了承)
 - ・議案数は一つで、昇入段規定で定めてある<審査料>、<免状作成手数料>の支払い能力がない非会員一般者からの初段申請であり、規定外であるため、段位審査委員会の諮問を経て理事会議案とした。日本連珠社の公益事業目的に則して満票で可決された。機関誌『連珠世界』平成25年10月号で初段位が発表され、段免許状が申請者に付与された。
- (4) 第4回理事会(書面理事会※) 平成26年2月20日(木)~同3月1日(土)
- ※メール・FAX・直接対話などによる意見交換と、【回答書】による議決表明、【回答書】締切3月6日を7日に変更
- ・出席理事 理事全員(理事総数13名)
 - ・議長:三森政男理事長、書記・議事録作成者:久保出美理事
 - ・議事録署名人:議長三森政男、副理事長飯尾義弘、理事久保出美(理事全員が了承)
 - ・議事録を全役員に配布し、平成26年度事業計画・収支予算案他の議事決議情報を機関誌『連珠世界』2014年4月号に掲載しているため、議事詳報を割愛する。

[委員会活動報告に関する事項]

- (1) 総務委員会
- ・公益認定移行申請に関して、業務委託契約先社・本郷税理士法人の指示の下、書類作成・新規規定作成などを遅滞なく行なった。
 - ・会員総会と理事会に関する資料等の作成、及び発送手配等、総務活動を遅滞なく行なった。
 - ・国及び指導官庁からの書類などの提出要請に、遅滞なく適切に回答し、HPにもメディア委員会の協力を得て公開した。
 - ・事務局は久保出美理事のもと、毎月の機関誌の送付者・部数管理及び珠友や一般人からの各種問い合わせに遅滞なく回答し、段位免許状作成・発送、依頼を受けた普及資料などの発送他、円滑な事務運営に努めた。
 - ・樋渡喜久磨理事が、連珠関連図書などの整理保管を継続して行なった。
- (2) 普及推進委員会
- ・本会会員がリーダーとなって各地で連珠普及・指導や競技会の開催や指導を行なっている。おもな各地の連珠会はホームページ掲載のとおり。
 - ・各地区で連珠公認指導員を中心にして支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画実施するなど、積極的に女性や老人福祉施設や少年たちの連珠に対するボランティア活動を継続実施し、公益目的事業を継続推進し、知的文化の向上に寄与貢献した。
 - ・会員がボランティアで用具を提供し定期指導を行ない、連珠の普及活動に努めた。
 - ・公的施設への継続した機関誌の贈呈や上記ボランティア活動に対する、感謝の手紙などを受け取っている。

(3) 財務委員会

- ・理事長指示の下、財務委員（久保・安本）間で協議し、外部専門業者の支援の下、収支決算書及び財務諸表を継続作成した。一方、より緻密な財務管理のため、資産及び負債勘定科目を適宜増やし、予算案も過去のデータ分析からさらに現実的な予算編成を行なった。また収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。

(4) 広報委員会

①メールマガジンの週刊発行

以前より日本連珠サービスの発行、広報委員会協力で行ってきた。3月末で週刊にて671号の発行を継続中。読者は500名弱。

②過去の書籍・雑誌のデータ化

『連珠世界』を始め過去の連珠雑誌・書籍のデータ化（PDF）を実施中、完璧なデータを目指して努力を進めるが、各位のさらなる資料提供等を求める。

樋渡氏の図書館とも連動してデータ保存に努める。

蔵本嗣治氏の協力もあり、国会図書館のデータを収集中。費用発生のため、予算協力が必要だと思える。

③プレスリリースとして、名人位挑戦手合い、A級リーグ戦、珠王戦、などの取材依頼を、多くの報道機関へメールで発信したが取材はなかった。

少なくとも公式戦の成績等は理事メール等にて報告を各位に要請したい。

④各連珠会から要請を受け、印刷物の配布、連珠盤などの寄贈を行った。

(5) 国際委員会

- ・第13回世界選手権戦が平成25年8月3日から8月14日までエストニア・タリンにて開催され、日本から総勢5名が参加した。
- ・予選会であるQTには、石谷信一九段、岡部寛八段、久富隆洋七段、宮川淳三六段の4名が参加し、岡部八段が予選を見事通過した。
- ・本戦であるATには日本から大角名人、岡部八段が参加し、大角名人が2位に入り次期シード権を獲得した。
- ・世界選手権戦最中にRIFの総会が開催され、日本から岡部理事が参加（河村理事もTV会議にて参加）し、RIF加盟国との意見交換を行い、日本の意見を主張した。
※なお、次回（2014年4月）のチーム世界戦は台湾で行うことを決定した。
- ・世界戦の速報をはじめ、連珠ニュースレター、日本連珠社HPなどに連珠情報を発信した。
- ・全日本連珠選手権戦（=愛称：珠王戦）を国際戦代表選手選考会としての位置づけに確定させ、選考基準も確立させた。

(6) 機関誌編集委員会

- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、694号から705号まで遅滞なく発行した。
- ・事務局と連携し、政府公報の掲載、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。

(7) メディア委員会

- ・活動内容の主なものとしては、公式HP上において、各大会予告・結果報告（速報）、過去の名人戦記録・連珠古書関係のコンテンツ整備・更新等を中心として活動を行なった。
- ・その他の活動としては、各委員会の要請による公式HPへの情報公示・管理や役員用のメーリングリストを設定し直す等の作業を行なった。

(8) 珠規審議委員会

- ・『連珠／ルールブック』に明文化されていない問題提起事象の問い合わせに、その都度対応して回答した。

(9) 段位審査委員会

- ・昇入段申請を特例民法法人（社団）日本連珠社【昇入段規定】に基づき、遅滞なく審査認定した。例外事案発生に際しては、委員会の諮問決議を理事会議案として提議した。
- ・平成25年度昇入段者数は下表の通り。（ ）内は推戴昇段者数。各地域での級位者戦優勝者の初段申請が近年顕著に減少している。公式棋戦参加費について日本連珠社会員優遇制度推進を課題としたい。
- ・直近5年度の〔段位別昇入段者数の推移〕については下表の通りとなっている。

公益社団法人日本連珠社
平成25年度事業報告

	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	延計
平成25年度	0	0	0	3	4	2	1	1	4	15 (0)
平成24年度	0	1	2	0	1	3	4	0	5	16 (0)
平成23年度	2	0	0	4	3	2	2	4	4	21 (0)
平成22年度	0	2	0	4	2	2	2	9(1)	7	28 (1)
平成21年度	0	1	2	0	2	4	1	2	7	19 (0)

(10) 名人戦運営委員会

- ・第51期名人戦挑戦者決定リーグ戦を、平成25年9月に浜松市の<ホテル米久>で実施した。
- ・同名人位挑戦手合い5番勝負を、名人戦運営委員の協力で滞りなく実施した。ライブは好評であった。
- ・名人中村 茂九段が2勝2分で、挑戦者大角友希九段を破り、全日本連珠名人位(第51期)を防衛した。

(11) 記録委員会

- ・国内の公式棋戦で委員会に棋譜報告のあった結果をRIFに報告して、国際レーティングに反映させた。
- ・公式棋戦の結果報告・棋譜報告が無い場合には、国際レーティングに反映できない。棋戦ごとの運営責任者が報告義務を負うよう、今後検討を要する。

(12) 詰連珠通信戦委員会

- ・通信戦：第94回、95回の通信戦大会を実施。通信戦での題数指定打ちを検討し、94回から従来の二題打ちと併用する形で採用した。
- ・詰連珠：通常の活動として、月例詰め連珠を始め、天狗道場、特別昇入段テスト、四追いコンクール、限珠案コンクールを開催した。また、第7回詰連珠大賞選考を行ない、大賞は該当なし、作品賞として川崎伸彦氏の「オルレアンの乙女」を選び、表彰した（『連珠世界』2013年5月号発表）。

(13) 特別表彰制度

- ・平成25年度は特別表彰該当者なし。